

講演テーマ

【最後までその人らしく生きるを支える

—意思決定を支援する医療・介護関係者の役割—】

講師：北海道医療大学名誉教授 日本看護管理学会監事 石垣靖子先生

日時：2018年7月20日(金)

- ・医療者の役割：その人が望むような「よい時」を生きることが出来るように身体状況を整えること
- ・人は「生きるための治療ではなく目標を達成するための治療を受けたい」と思っている
- ・病気はもちろん治して欲しいがそれよりも「自分の生き方や、やりたいことをどうするか」の方がより大事な問題
- ・高齢者の入院：「本人の満足」を物差しに苦痛の緩和と QOL の向上に最大限の配慮を！
*長生きした人生の終わりの大切な日々が、本人も周囲の人たちにとっても肯定できるものであるように
- ・AD から ACP へ
AD：自分に対して行われる医療についてあらかじめ意向を書面に残す
ACP：書面作成が目的ではなく話し合いや対話のプロセスを重視
コミュニケーションが大事
- ・対話のポイント：相手の感情「思い」に手を当てる、目を向ける
看護師は相手の問題を探す人ではなく「今この人がどんな力を持っているか」を見極め、それを引き出すことが看護
- ・地域包括ケアの時代：長期にわたる外来での継続的な看護が必要な時代
入院から外来へ 外来看護師がキーパーソンになって症状だけではなく「人間」に関心を寄せることが大切
- ・家庭内では愛という名の支配・抱え込みがある⇒患者本人にとって良いと思いついで勝手にする。本人の克服する力を過小評価し本人に犠牲を強いることがある
- ・医療者は「人間を診る・見る」専門職
- ・病気だけでなく私を見て！という思いを大切に PATIENT から PERSON へ
- ・看護師が会う人たちは固有のかけがえのない人生を生きている。病む人に会いながら患者の人生に深くかかわり、その人の人生が変わり看護師自身も変わる。素晴らしい特権が与えられた職業
- ・専門職を選んだ以上日々努力を怠らず力をつけ 協働しコミュニケーション能力を身に着けることが大切